

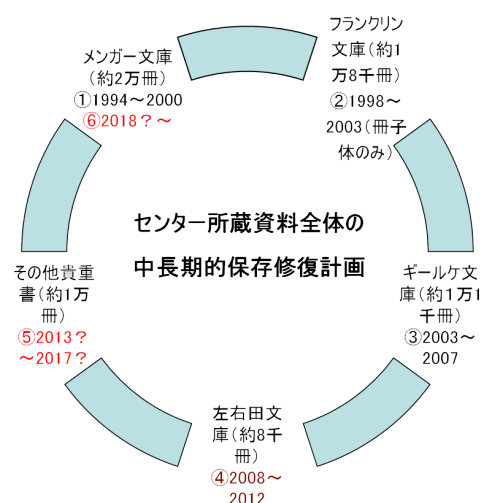
# 一橋大学社会科学古典資料センター保存修復工房の活動について

## 1. 保存修復工房について

・1995年にカール・メンガー文庫マイクロフィルム化・目録改訂・保存事業を契機として古典資料センター内に設置された、国立大学で唯一の西洋古典資料専門の工房。

・現在、非常勤の専門スタッフ4名を中心に、専門助手2名、図書館職員1名と連携しつつ、センター所蔵資料の保存修復作業、貴重書庫の保存環境整備を進めている。2013年現在で約59,000点の保存修復が完了しており、今後もセンターの中長期的保存修復計画に沿って所蔵資料の処置を進めていく予定である。

・中長期的保存修復計画では、メンガー文庫（1994年準備作業開始）から文庫単位ごとに所蔵資料全点を悉皆的に保存修復し、2017年に全所蔵資料の処置が完了した後、再びメンガー文庫からのサイクルを継続することで、所蔵する貴重資料の永続的な保存を図ることを意図している。



## 2. 保存修復工房の運営・事業

・保存修復工房の運営は、1995年の開設当初より、一橋大学後援会などの財政的援助によって、文庫単位の保存修復計画を途切れなく継続することで維持されてきた。

・直近では2013年度から2017年度までの予定で、後援会寄付事業の研究環境整備充実経費（一般貴重書）が採択されており、本学の建学前後に収集された貴重な資料を含む約11,000点の資料の保存対策を行う予定。

・所蔵資料の保存修復事業などを通じて蓄積された古典資料の保存修復に関する知識・経験は、古典資料センター主催の西洋社会科学古典資料講習会、西洋古典資料保存講習会、学内研修会などによって、学内外の関係者へ積極的に伝えられている。また、2012年度からは日本学術振興会の「ひらめき☆ときめきサイエンス」事業を通じて、中高生を対象に古典資料や製本に親しむ講座を開催している。

### 3. 保存修復工房の実績

#### 3.1. センター所蔵貴重資料の保存修復

- ・保存修復工房では、中長期的保存修復計画に沿って以下のような調査・処置を行っている。
- ・工房の保存修復作業については、<http://chssl.lib.hit-u.ac.jp/preservation/index.html> も参照。

##### 1) 資料の劣化状況調査

装丁全体の構造、形態、素材、現在の劣化状況を把握し記録する。このデータに基づいて当面の保存処置を決定するとともに、長期保存のための基本データとして保存し、将来の再調査における参考・比較の材料とする。

##### 2) 資料の低温処置・クリーニング

新たにセンターに収蔵された資料は、紙を食害する虫類を殺虫するため-40℃・一週間の低温処置を行う。資料に付着した埃は、素材の劣化を引き起こす原因となることから、書籍専用のクリーニング機と不織布を用いて埃の除去作業を行う。

##### 3) 製本構造損傷資料への対策

綴じや支持体など製本構造に損傷がある資料は、原本の直接利用の頻度を考慮して選択的に修復する。修復しない資料は、ジャケットを掛けて保護し、中性紙容器に収納して保存する。

##### 4) パンフレット状資料の簡易製本またはフォルダー入れ

表紙ボードのない比較的薄い資料は、利用と保存の便を考えて、選択的に、中性紙ボードと糸によって保存製本するか、糸とじの後中性紙ボード付きのフォルダーに入れる。

##### 5) 革製本資料対策

革部分の劣化が進んでいる資料は、剥落止め処理・劣化防止のための保革油処理を施し、中性紙ジャケットを掛けて保護する。

##### 6) ステープラー製本資料への対策

金属の針金を用いて製本されたステープラー製本（バインダー）資料は、製本構造を一旦解体してステープラーを除去し、新たに長期的保存に耐え得るよう製本し直す。

##### 7) ページ修理

本文紙で破れた箇所は、和紙や生麩のりを使って補修する。

- ・年度ごとのセンター所蔵貴重資料の調査・処置実績は以下のとおり。

	平成7	平成8	平成9	平成10	平成11	平成12	平成13	平成14	平成15	平成16
	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004
	メンガー文庫							ギールケ文庫		
	フランクリン文庫									
劣化調査	19,130*		1,301	1,411	7,917	2,575	1,848	2,249	1,422	3,027
簡易再製本	371	690	590	191	90	120	61	507	235	304
革材対策	688	165	720	688	1,420	816	345	272	105	44
中性紙容器	726	1,099	940	401	659	429	228	1,436	338	364

	平成17	平成18	平成19	平成20	平成21	平成22	平成23	平成24	平成25	
	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	
	ギールケ文庫			左右田文庫					一般貴重書	
劣化調査	2,927	3,722	1,477	1,904	1,724	1,167	2,175	1,189	1,679	
簡易再製本	81	17		12	30	3	2			
革材対策	100	247	4	278	130	13	53	211	80	
中性紙容器	425	1,055	155	587	905	489	577	92	463	

58,844

\* 平成7年の調査数には工房正式開設前の平成5～6年処理分を含む

### 3.2. 西洋社会科学古典資料講習会

・西洋社会科学古典資料講習会（2013年度までに33回開催）では、全国の大学図書館職員等を対象に、保存科学の分野を含む講義を行っているほか、第16回講習会（1996年度）以降は保存修復工房および貴重書庫の見学・実演を毎年行っている。受講生はこれまでに全国から延べ550人を超えている。

・なお、2013年度講習会（第33回）の時間割は以下のとおり。

	第1時限 9:00-10:30	第2時限 10:45-12:15	第3時限 13:35-15:05	第4時限 15:20-16:50	17:30-19:30
	<b>書誌学(I)</b>	<b>書誌学(I)</b>	<b>書誌学(II)</b>	<b>古典研究(I)</b>	<b>懇親会</b>
11月6日 (水)	「図書館員のための書誌学入門」 (仮) 武者小路信和 (大東文化大学文学部准教授)	「図書館員のための書誌学入門」 (仮) 武者小路 信和 (大東文化大学文学部准教授)	「洋書の姿 印刷と折丁」 高野 彰 (書誌学者)	「近代イギリス史研究とオンライン学術資料 18世紀後半アメリカ独立革命期を中心にして」(仮) 松園 伸 (早稲田大学文学学術院教授)	
	9:00-10:30	10:45-12:15	13:35-15:05	15:20-16:50	
	<b>保存修復(I)</b>	<b>古典研究(II)</b>	<b>保存修復(II)</b>	<b>センター見学</b>	
11月7日 (木)	「環境と材料」 増田 勝彦 (昭和女子大学光葉博物館顧問)	「18世紀フランスの「政治経済学」と穀物取引論争」 安藤 裕介 (立教大学法学部助教)	「歴史的製本の修理について」(仮) 岡本 幸治 (製本家・書籍修復家)		
	9:00-9:45	10:00-11:30	12:50-14:20	14:35-16:05	16:20-16:40
	<b>図書館見学</b>	<b>書誌学(III)</b>	<b>書誌学(IV)</b>	<b>古典研究(III)</b>	<b>修了式</b>
11月8日 (金)		「西洋古典資料の目録作成」(仮) 床井 啓太郎 (一橋大学社会科学古典資料センター助手)	「目録作成実習」(仮) 福島 知己 (一橋大学社会科学古典資料センター助手)	「19世紀ドイツ法学におけるゲルマニステン」(仮) 松本 尚子 (上智大学法学部教授)	

・第16回～33回の所属別・地域別受講者一覧は以下のとおり。

	受講者数	国	公	私	その他	北海道	東北	関東甲信越	中部・東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
第16回	35	10	1	22	2			19	4	10			2
第17回	30	11	2	16	1	1	1	19	2	6			1
第18回	30	7		19	4	1		17	3	9			
第19回	31	13		16	2			16	3	10			2
第20回	30	8	3	17	2		1	17	3	8			1
第21回	30	14	2	13	1	1	2	16	2	7			2
第22回	30	14	1	13	2	1	1	14	3	9		1	1
第23回	30	14		15	1	1	1	19	2	6			1
第24回	31	14	2	13	2	2	1	16	1	8			3
第25回	32	12		18	2		2	18	1	9			2
第26回	34	9	2	20	3	1	1	22		8			2
第27回	31	14	1	14	2	1		16	1	10		1	2
第28回	30	11		16	3	2		19	1	7			1
第29回	31	11		17	3	2		19	3	5		1	1
第30回	34	14		16	4			25		9			
第31回	33	15	1	13	4			19	5	5	1	1	2
第32回	32	13		13	6		1	20	6	5			
第33回	32	11		15	6		1	22	1	7	1		
	566	215	15	286	50	13	12	333	41	138	3	3	23

### 3.3. 西洋古典資料保存講習会

- ・西洋古典資料保存講習会（2013 年度までに 14 回開催）では、3 日間の日程で古典資料の保存・修復に関する技術を実技指導している。
- ・現在の受講者定員は 10 名で、例年応募者の倍率は 3 倍を越える。外部の製本家、保存科学研究者とともに工房スタッフがマンツーマンに近い形で指導にあっている。
- ・受講生はこれまでに全国から 98 名を数え、それぞれが各大学等で古典資料の維持管理業務の中核として活躍しており、他に類例のない講習会として高い評価を受けている。
- ・なお、2013 年度講習会（第 14 回）の時間割は以下のとおり。

	第1時限	第2時限	第3時限
7月3日 (水)	オリエンテーション (9:00-9:10) 演習1 (9:10-11:50) 「保存計画のための材料と環境 (1)」 増田勝彦	演習2 (13:00-14:50) 「保存計画のための材料と環境 (2)」 増田勝彦	演習3 (15:10-17:00) 「資料保存と製本構造、調査票の記入・活用」 岡本幸治
7月4日 (木)	演習4 (9:00-11:50) 「劣化調査と保存計画」 増田勝彦	演習5 (13:00-14:50) 「国立国会図書館における東日本大震災被災資料への対応」 村上直子	演習6 (15:10-17:00) 「本のクリーニング、革装本の手入れ、書見台の製作」 岡本幸治
7月5日 (金)	演習7 (9:00-11:50) 「ページ修理の基礎、保護ジャケットの製作」 岡本幸治	演習8 (13:00-14:50) 「保存箱と封筒フォルダーの製作」 「貴重書修復工房・書庫見学」 岡本幸治	演習9 (15:10-17:00) 「保存製本」 岡本幸治  修了式 (17:00-17:10)

- ・第 1 回～14 回の所属別・地域別受講者一覧は以下のとおり。

	受講者数	国	公	私	その他	北海道	東北	関東甲信越	中部・東海	近畿	中国	四国	九州・沖縄
第1回	4	3	1					1	1	1			1
第2回	4			4				3		1			
第3回	4	1		3				3	1				
第4回	6	3		3			1	2	1	1			1
第5回	6	3		3		1		2		3			
第6回	6	2		3	1			4		1		1	
第7回	8	1		6	1			5		3			
第8回	8	3		5				4		3			1
第9回	8	1		7				6		2			
第10回	8	6		1	1	1		5		2			
第11回	8	4		3	1	1		4	1	1			1
第12回	8	2		5	1			6	1	1			
第13回	10	6		4				8		1			1
第14回	10	2		8			1	5	2	2			
	98	37	1	55	5	3	2	58	7	22	0	1	5

### 3.4. 学内他機関との連携

#### 資料の保存修復

- ・保存修復工房では、依頼に応じて附属図書館、経済研究所等の学内他機関で所蔵する資料の保存修復を行っている。

#### 学内他機関資料保存修復

	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度
図書館	40	66	37	22	53	13	34	13
統計情報センター		2	1	2	11	9	7	7
イノベーション	*15	0	1	0	0	3	19	
経済研究所		0	0	2	0	0	22	33
総資料点数	55	68	39	26	64	25	82	53

\*2005年度以前は記録がないが、工房開設以降、例年数十点程度のほか機関資料を修復している

#### 実習・講習など

##### 【実習・講習】

- ・保存修復工房では附属図書館など学内外の機関の求めに応じて小規模の実習・講習を実施している。

対象	内容	年度
図書館新規採用職員	修復作業・保存容器の基礎（数年間）	
歴史共同研究室助手（1名）	保存容器やその他の修復	1997
図書館・旧図書情報係（6名）	和紙を使ったページ修理の方法	1998
図書館・旧閲覧係（3名）	クータ挿入と貼り付けの方法	2002
紙修復専門学校生徒 （ランビエンテ修復芸術学院）	保存容器の作成など（数年間）	2003～
筑波大学実習生	保存容器や本のクリーニング（2005,06年各年）	2005,06
学芸大・大学院生	基本的な保存作業	2006
図書館（3名）	保存容器の作り方	2006
図書館・旧受入係	保革油の塗布方法	2007
図書館・旧閲覧係（4名）	クータ挿入と和紙によるページ修理	2007
図書館・経済研究所（5名）	クリーニング、クータ、和紙での表紙修理、封筒フォルダ	2008
図書館・旧閲覧係（1名）	封筒フォルダーの作り方	2009
統計情報研究センター（3名）	メチルセルロースによる修理の方法	2010
学園史資料室（1名）	保存箱の作り方	2010
イノベーション研究センター（1名）	ページ修理	2010
イノベーション研究センター（1名）	封筒フォルダーの作り方	2010
学内各資料室助手等（12名）	本についての基本知識と保存作業について	2011
経済研究所（1名）	保革油の塗布方法	2012
経済研究所（1名）	ページ修理・カイルラッパーの作り方・クータ挿入	2013

## 【相談】

・保存修復関連の相談など。この他にも学外他機関から多くの問い合わせを受けている。

対象	内容	年度
経済研究所	書架にひく調湿マットについて	2005
統計情報研究センター	古文書担当が扱っている写真資料の保管方法	2007
言語社会研究科・資料室	本の保管環境について	2009
イノベーション研究センター	簡易フォルダーについて	2010
イノベーション研究センター	和本の収納箱について	2010
経済研究所	虫害が著しい貴重寄贈本の処置方法について	2010
図書館・旧受入係	返却資料の臭気の除去方法	2010
磯野研究館 語学研究所	資料室の環境と本のカビ除去の指導	2010
統計情報研究センター	外注保存容器（フォルダ）について	2013

## 【学内出張作業】

・別立ての予算で数週間から数ヶ月、学内他機関の保存修復作業を行っている。

対象	内容	年度
附属図書館	ホットメルトのやり直し他作業全般	2001
統計情報研究センター	破損箇所の修理や保存容器の作成	2006

## 【展示】

・附属図書館「高本展示」のほか、古典資料センター小展示の企画立案を行っている。

対象	内容	年度
附属図書館	「高本善四郎図書助成コーナー」『本を残す 本を伝える ～書籍修復の世界～』	2001
古典資料センター	古典資料センター小展示『Le livre』	2008
古典資料センター	古典資料センター小展示『本のほん』	2009
古典資料センター	古典資料センター小展示『紙展』	2010

\* そのほか例年、夏・秋の保存講習会・資料講習会の際に工房展示を行っている

## 【その他】

対象	内容	年度
古典資料センター	虫害のランダム・サンプリング調査	2000
古典資料センター	台風による壁面破損の工事前作業（窓の緊急補修・本の移動・保護紙貼付）	2004
古典資料センター	虫害被害資料の調査および対処方法（低温処理法）のテスト	2008
古典資料センター	低温処理法作業（紙包装・袋密封・冷凍・開封・クリーニング・調査・配架）	2008～
古典資料センター	ニチマイによる資料撮影時の補助	
古典資料センター	国内外の見学者のための保存作業デモンストレーション	
古典資料センター	外部発注による書庫内作業（資料クリーニングなど）の際の作業説明等	
学長室	所蔵アルバムの破損部修復・製本	
如水会	寄付者芳名帳製作	
附属図書館	図書館展示のためのジャケット修理	
附属図書館等	所蔵資料の低温処置（殺虫）	
古典資料センター	脱酸化処置対象資料の見極めと処置後の調査・容器作成	